

スタンドアップ SAGA

—連合佐賀青年委員会 情報誌—

第4号 (2015年9月1日)

発行所 連合佐賀 青年委員会 〒840-0804 佐賀市神野東 4-7-3
TEL 0952-33-3705 FAX 0952-33-2805 URL: <http://www.rengo-saga.jp/>
発行責任者 御厨 拓海
編集責任者 古賀 恭輔

6月～8月は各地で平和行動に参加しました！

2015 平和行動 in 沖縄編

【概要】6月23日～6月24日に沖縄県那覇市で開催された。

【内容】

2015 平和オキナワ集会は、『「次世代への継承」をもって、戦後70年目からの新たな平和運動をスタートさせよう！』をテーマに基地の中の町・那覇市那覇市民会館において開催された。

第1部では、「これからの平和運動と次世代への継承を考える」をテーマに、連合本部山根木局長をコーディネーターとして、また連合沖縄・連合長崎・連合広島・連合北海道の青年委員会の代表者をパネラーとして、パネルディスカッションが開かれた。それぞれの地方連合会におけるこれまでの平和の取り組みの報告とこれからの課題について話をを行った。

第2部の平和式典は、参加者全員による黙祷のあと、主催者を代表して連合本部の古賀会長が挨拶を行った。古賀会長は「戦後70年を迎えたが、沖縄戦がもたらした惨劇と非人間性の実相を強く心に刻み、米軍基地の整理縮小、日米地位協定の抜本改定を我々の要求として粘り強く運動を推進しよう」と訴えた。地元歓迎挨拶では大城紀夫連合会長が「私は午前中戦没者慰霊の式典に参加した。その中で安倍総理に対する大きな批判の声があった。しかし、衆議院・参議院の議長さんには拍手があった。その違いは、歴代の自民政権が沖縄県民に寄り添い日本政府として経済政策を掲げ、沖縄からの目線向き合ってきた。選挙で選ばれた沖縄県知事に会わないなど、行政の長である安倍さんが取る行動としては全くおかしい。恐れの色だ。知事はアメリカでのロビー活動を行っている。沖縄県民は総決起集会を行い普天間基地の辺野古移設に反対している。この基地の現実をピースフィールドワークを通じて学習し、職場・地域で広めてほしい」と挨拶した。国会議員の紹介の後、平和メッセージが行われ、ピースリレーとして、連合沖縄より連合広島へ「平和」のタペストリーが渡された。

集会の最後に「沖縄の実相と悲惨さ、平和の尊さに学び、『米軍基地の整理・縮小』と『日米地位協定の抜本的な見直し』を求めて、粘り強く平和運動を展開する。」とする平和アピールが採択された。

2日目は「ピースフィールドワーク」に参加。佐賀県からの参加者は「基地コース」に参加。連合沖縄の青年委員会のメンバーのガイドにより、普天間基地の代替基地となって工事が進められている辺野古を瀬崇の浜から見学、基地正門前で座り込みを行っている人々を激励した。次に凄惨な「集団自決」が繰り返された読谷村のチビチリガマに行き、黙祷の後説明を受けた。最後に嘉数高台から普天間基地を見学した。

夕方5時からは、那覇市内の沖縄県庁前広場で、「米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本見直しを求める行動」が開催された。集会後県庁前から国際通りを牧志公園まで「米軍基地の整理縮小」「日米地位協定の見直し」などを訴えながら、デモ行進し、全ての日程を終了した。



2015 平和行動 in 沖縄参加者

2015 平和行動 in 広島編

【概要】8月5日～8月6日に広島県広島市で開催された。

【感想】江口委員

2015年8月5日、広島で行われた平和行動に参加した。まず平和記念公園内の慰霊碑を巡る「ピース・ウォーク」が開催された。全国から約600名の参加者が訪れ、連合広島の仲間を中心としたガイドを受け、各所の慰霊碑等で説明を受けた。

夕方からは上野学園ホールにおいて、「連合2015ヒロシマ平和集会」に参加した。平和集会ではITUCの書記長代行の報告をはじめ、広島原爆で実際に被爆された方の被爆体験証言や高校生平和大使4名の活動報告があった。

特に被爆体験証言の内容は凄惨で心に訴えるものが大きく、私たち「戦争を知らない世代」において非常に貴重なものであった。広島平和集会は戦争を繰り返さない決意と核兵器廃絶に向けた思いを強く固めるものとなった。

2015 平和行動 in 長崎編

【概要】8月8日～8月9日に長崎県長崎市で開催された。

【感想】梅田委員

一瞬で街を消した原子爆弾。

熱線・爆風・放射線による被害は強烈だった。

今の平和な日本は、残酷な戦争を経て築かれたものである。

戦後70年間受け継がれてきた平和の大切さをできるだけ多くの人に伝えていかなければいけない。

実際に現地で、見て・聞いて・感じることで、より一層、平和について考えさせられた。

二度と悲劇を繰り返すことがないように、皆で平和への取組を続けていかなければいけないと感じた。



平和行動 in 広島参加者



平和行動 in 長崎参加者

『東北の子ども応援わんぱくプロジェクト』が開催されました！

日本全国にいる『連合』のチームメイトが4年前、東日本大震災で大きな被害に遭いました。その中でも特に被害が大きかった岩手・宮城・福島の間を応援するために始まったのが「わんぱくプロジェクト」です。今年度は佐賀・長崎チームで岩手を応援することとなりました。

このプロジェクトの内容は、去る8月1日から8月3日までの3日間の日程で岩手の小学生が佐賀・長崎を楽しみ、友達の輪を広げます。そして今年の秋には佐賀・長崎の小学生が岩手に向き被災地を学び、東北を楽しむ、というプランです。

8月1日の初日は岩手の小学生が長崎入りし、平和公園で平和学習を行いました。数少ない、若しくは初めてかもしれない親のいないお泊り。1日目の夜はあまり眠れなかったようです。

8月2日。この日は佐賀・長崎の小学生と初対面です。見学先である三菱重工業長崎造船所の一室にて3県の小学生が初対面しました。さすがにみんな緊張の面持ちで見学中も積極的なコミュニケーションとまではいきませんでした。しかしこの後が交流の山場、道の駅鹿島での干潟体験です。中でも岩手の子にはとても新鮮だったようで、最初は恐る恐る干潟に入っていましたが、一度泥まみれになると、最初の緊張がウソのように3県入り乱れて遊びまわっていました。夕食ともなると会話も弾み、労働組合に関するクイズ大会も開催され、会場はとても賑やかなものでした。

8月3日。早いもので交流できる時間はこの日の午前中まで。有田のチャイナ・オン・ザ・パークにて有田焼の絵付け体験を行いました。思い思いの絵をマグカップに描き、友達同士で見せ合い、楽しそうに最後の交流を楽しんでいました。絵付けが終わると、お別れ会が開かれ、秋の再会を誓い、それぞれの家に帰っていきました。

このプロジェクトは東北の子どもを応援するためのプロジェクトですが、岩手の小学生は佐賀・長崎の小学生に負けず劣らず元気で、一見被災地の子であることを忘れてしまうようでした。岩手にお邪魔する際は、この元気の裏でどのような苦難を体験し、乗り越えてきたのか、ということを知りたいと思います。



わんぱくPJ参加者 青:岩手,橙:佐賀・長崎